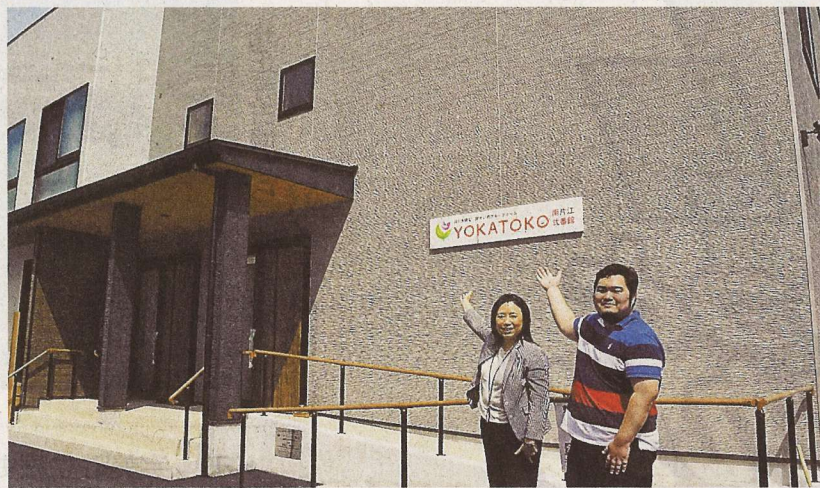


九産大生 グループホーム設計

建設業者など協力

城南区 来月オープン



完成した障害者グループホームの前に立つ九州産業大建築都市工学部4年の佐々木空良さん(右)と香川治美教授

九州産業大(福岡市東区)の学生が設計した障害者グループホーム「YOKATO OKO南片江式番館・参番

館」が、同市城南区南片江5丁目に完成した。総合建設業「スエナガ」(城南区)と、設計システム会社「安

心計画」(同市博多区)が協力。10月にオープンする。昨年3月、九産大建築都市工学部住居・インテリア学科の香川治美教授のゼミ生が3チームに分かれ、安心計画の3D-CAD(3次元コンピュータ利用設計システム)を使ってグループホームの設計案を競う「Gh1グランプリ」を開催。グランプリに選ばれた案を基に、後輩学生らが間取りの変更や内装デザインの決定などに携わり、スエナガが建設した。

今月8日に現地で、完成記念式典が開かれた。グループホーム2棟は2階建て。車椅子での移動を考慮して引き戸にしたり、部屋ごと壁紙の色や窓の位置を変えたり、学生のアイデアを取り入れられている。

プロジェクトには学生が計14人参加した。4年の佐

々木空良さんは「まさか本当に建つとは思わなかった。部屋の壁紙など入居者に気に入ってもらえたらうれしい」。スエナガの出口洋一社長は「学生に夢を与えたいと思った。今回の経験は、きっと社会に出ても役に立つはずだ」と話していた。

(北島剛)